臺灣日日新報　昭和十五年九月九日（月曜日）　第一万四千五百四十六號　（一）

敵の砲艦に巨彈命中

我が海軍は三日巨彈を發射、敵砲艦第二三號に命中撃沈せり（寫眞は巨彈命中の瞬間の海面狀況）

會商の前途に 蘭印側は期待

情報部報道課談

宜昌上流で 敵船撃沈

【CC基地七日發同盟】中支戰線第一線部隊の報ずるところによれば、宜昌上流五十哩地點の千五百トン級敵船一隻を擊沈、四二隻は損傷を與へ、敵は宜昌上流に於ける船舶の運航を斷念するに至れり

英船の損害

四百三十二萬餘噸

一、英國側にしては落手に係るもの
五〇三、〇〇〇噸
一、他の獨伊側に於けるもの
九三、五〇〇噸
五九六、五〇〇噸

支那軍突如 佛印に侵入

【ダイジー七日發同盟】パリからの情報によれば、佛印國境附近にあつた支那軍は五日突如として佛印に侵入を開始したが、佛印側に於ては如何なる抵抗をも試みず、支那軍は一路ラオカイ方面に進撃中であるといふ

農林行政機構の 根本的な改革へ

浪費と能率低減 ソ聯の頭痛の種

【モスクワ七日發同盟】ソ聯邦政府は六日經濟機關の一部を改正し新たに國家統制人民委員部を設けて國家統制に關する國家權力を一元的に集中し、國家の經濟的發展及び他の施策が經濟的觀點に於て合理的に實施されるやう監督することとなつたが、共産機關紙プラウダは六日の紙上に右に關する論説を掲げ新機關の設置を歡迎するとともに、國家經濟の運營に於ける浪費と能率低減の問題を取上げ、之が對策の必要を力説してゐる

獨軍は倫敦猛爆

英空軍、伯林を爆撃

時計仕掛爆彈も投下

危險極まりなき倫敦

米國は實力で日本の 南進阻止の決意なし

一晩中空襲繼續

獨空軍一指揮官の談

恐るべき大爆撃

伯林を大空襲

米軍用道路建設案

カナダ貫通アラスカへ

澤田大使は 今月末歸國

ソ聯瑞典間に 通商協定成立

層鐵禁輸は 對日牽制策

敗戰責任者 を逮捕監禁

獨立第六旅と 新四軍とが衝突

米國は實力で日本の 南進阻止の決意なし

十日の準備會が最後 實踐的段階に乘出す

首相は人選に付熟慮

臺灣日日新報　昭和十五年九月九日（月曜日）　第一万四千五百四十六號　（二）

臺灣新民報　本紙　定價　本島一部五錢　一ヶ月金八十錢　一ヶ年金九圓六十錢　廣告料　普通一行金五十錢　特別一行金一圓　廣告取次所　臺灣日日新報社　臺北市表町二丁目十番地　臺灣新民報社　臺北市太平町二丁目二十番地　臺灣日日新報社　臺中市　臺南市　高雄市　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣新民報社　臺中支局　臺南支局　高雄支局　屏東支局　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣日日新報社　臺北市表町二丁目十番地　臺灣新民報社　臺北市太平町二丁目二十番地　臺灣日日新報社　臺中市　臺南市　高雄市　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣新民報社　臺中支局　臺南支局　高雄支局　屏東支局　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣日日新報社　臺北市表町二丁目十番地　臺灣新民報社　臺北市太平町二丁目二十番地　臺灣日日新報社　臺中市　臺南市　高雄市　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣新民報社　臺中支局　臺南支局　高雄支局　屏東支局　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣日日新報社　臺北市表町二丁目十番地　臺灣新民報社　臺北市太平町二丁目二十番地　臺灣日日新報社　臺中市　臺南市　高雄市　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局　臺灣新民報社　臺中支局　臺南支局　高雄支局　屏東支局　臺東支局　花蓮港支局　澎湖支局

支那農業經濟論 上卷

改造社

東京市芝區新橋七丁目　振替東京八四〇二番

天野元之助著

新刊　刻苦數年鏤骨研鑽の成果にして支那農業經濟研究の最高峰!!

【目次】

第一章　土地制度
第一節　地價形態と種類
第二節　耕地所有
第三節　小作制度
第二章　階級構成
第一節　地主
第二節　自作農
第三節　小作農
第四節　農業勞働者
第三章　小作制度
第一節　小作農と地主
第二節　小作料
第三節　小作慣行
第四節　小作爭議
第四章　農業經營
第一節　農業經營の特質
第二節　農業經營の發展
第三節　農業經營の諸類型
第四節　農業經營の諸問題
第五章　農村社會
第一節　農村社會の特質
第二節　農村社會の構成
第三節　農村社會の變動
第四節　農村社會の諸問題
結論

菊判　上製　四六判　全三巻　（巻三）　定價　各冊二圓　送料　各十四錢

短歌作法講座

好評噴々

作歌入門　第一巻　一・六〇　〒一四
作歌實踐　第二巻　一・六〇　〒一四
短歌作法　第三巻　一・六〇　〒一四
作歌鑑賞　第四巻　二・五〇　〒一四

旅愁

長篇小說

第一篇　第二篇

横光利一著

裝幀　佐野繁次郎

定價　各冊二圓　送料　各十四錢

故郷失ひぬ

ヴェレサーエフ著　八住利雄譯

新刊

これぞそのかみの日に胡蝶の夢野と詩畫に彩つた戀愛文學。現實憧憬の涙を絞つて綴つた戰爭の哀しい花。飜譯なき最良の兵、戰爭文學。

本書に書き遺べ!! 我が祖父の等の武勳と榮譽!!

高峰

石坂洋次郎著

眞摯に生活戰を追求した新倫理觀を指摘して文壇に異々の物議を醸した問題の小說。

九〇　〒二〇

麥死ず

岡本かの子著

鄙ふた肉感、生命の河、魂の情景、文學論調に充ち現代女流文壇隨一の長篇小說だ!!

四十〇　〒四〇

生々流轉

齋藤茂吉著

現代日本の著い牡丹な感情を封じこめた一連の歌集。歌壇の今日に於ける最高峰たる正に一代の大歌人斎藤茂吉氏の新境地!!

四一〇　〒五〇

高峰秀穂

米内山庸夫著

現代日本の著い牡丹な感情を封じこめた一連の歌集。歌壇の今日に於ける最高峰たる正に一代の大歌人斎藤茂吉氏の新境地!!

四一〇　〒五〇

雲南踏査記

内山完造著

氏は上海在住邦人の故老として多年支那人と生活を共にせる人だけに通俗の及ばざる示唆に富める隠蓑だ

二〇　〒二

上海漫語

ノーラ・ワーン女史著　宮崎信彦譯

バックの「大地」を凌ぐ傑作と絶讃を博した支那婦人作家ノーラ・ワーン女史の自傳的小說。

二〇　〒二

支那流離記

鍼灸師 電氣治療師

男女好職業　通信教授校外生募集

東京工業技術學校

東京市本所區緑町二丁目一〇

旋盤仕上工 製圖科 養成

毎月五日新學期　男女

電氣熔接科・塗裝技術科・三ヶ月速成

軍民徴用者養成受託

東京工業學校

校長　醫博　松浦善助

東京市本所區緑町二ノ三

無天口

十日朝東へ

▲田中直治郎氏（臺灣製糖常務）七日臺北より來北（鐵道ホテル）

▲宮本一郎氏（臺灣日報社長）八日歸社

▲大谷尊由氏（本願寺法主）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光照氏（本願寺法主夫人）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光暢氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光明氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光瑞氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光演氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光邦氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光見氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光圓氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光道氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光紹氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光照氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光暢氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光明氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光瑞氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光演氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光邦氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光見氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光圓氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光道氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

▲大谷光紹氏（本願寺法主令弟）一日より來臺中の處七日午後一時臺北驛發特別列車にて歸京の途に就く

重慶の和平熱は侮り得ない勢力

岩淵辰雄

【大阪七日發同盟】西南諸ルートの蔣政權に對する經濟的壓迫を强め、その內部崩壞の促進に拍車をかけてゐるが、蔣政權に對した態度に依れば

一、先に佛印に於て開かれた援蔣會議に於ても西南ルート遮斷に對する態度が勝關にとり絶對且つ出の發展、結局英米の積極的援助が此の儘續く限り重慶の和平熱は侮り得ない勢力を持つてゐる、其理由として擧げられることは

一、重慶は英佛、ベルカン地域の三方面に對し二重に壓迫を加へてゐるが、英國は目下ベルカン、地中海の各方面に於ける英國の地位の强化に努めてゐるので、重慶の和平熱に對しては英國側の出方如何が重大な關係を持つてゐる、其理由として英國は目下ベルカン地域に於ける英國の地位の强化に努めてゐるが、ベルカン地域の諸國は英佛二國に對し壓迫を加へてゐるが、英國は

故北白川宮殿下の御喪儀の御日取

八日宮内省から發表

【東京八日發同盟】故北白川宮永久王殿下の御葬儀の御日取りは八日宮内省から左の如く發表された

九月十二日　正殿移柩の儀
同　十三日　正殿十日祭の儀
同　十七日　葬所祓除の儀
同　十八日　葬所安置の儀
同　十九日　斂葬一日前祭の儀
同　二十日　斂葬一日前祭の儀
同　同日　正殿移柩の儀

【東京八日發同盟】故北白川宮永久王殿下の葬場殿祭は左記により執行

御墓所の地鎮祭

きのふ厳かに御執行

【東京八日發同盟】故北白川宮永久王殿下の御墓所地鎮祭は八日午後五時から日吉御陵の山麓斜面以下參列して齋々しく執行された

日本工民道場

工場勞務者の教養、技術を指導

東京近郊に敷地を物色中

【東京八日發同盟】産業報國運動に基づく工場勞務者の教養、技術の指導に當る中堅勞務者養成の目的を以て東京近郊に設立される日本工業協會では愈々その具體化を急ぐこととなつたが、この程中島飛行機工業會が率先その中堅勞務者養成機關として日本工民道場設立を申出たので來る十一日午前九時から陸軍大臣を始めその設立發起人會を開催、主催者側日本工業協會常務理事郡祐一氏より設立趣意を説明、次で發起人代表として陸軍省軍事課長西浦進大佐、中島飛行機工業會常務理事小山悌氏、日本工業協會常務理事藤原銀次郎氏、日本製鐵會社常務理事永野重雄氏、日本鋼管會社常務理事三島徳七氏、東京瓦斯會社常務理事小林一三氏、東京電燈會社常務理事菅原通敬氏、東京市助役大橋八郎氏、東京府學務部長赤木朝治氏、東京商工會議所理事團伊能氏、日本工業倶樂部理事長池田成彬氏、三菱重工業會社常務理事牧田與一郎氏、三井報恩會理事池田宏氏、三菱經濟研究所理事木村清氏、三菱商事會社常務理事藤野保己一氏、三菱鑛業會社常務理事加藤鐐五郎氏、三菱造船會社常務理事木村久壽彌太郎氏、三菱電機會社常務理事三吉正一氏、三菱倉庫會社常務理事山口喜三郎氏、三菱地所會社常務理事山田永俊氏、三菱化成工業會社常務理事小林中

臺日・臺灣綠合版

道路美化に奉仕
彰化市の保甲民八千餘名
して九時散會した
臺南州隊も歸る

彰化縣當局では七日午前八時から管内保甲役員八千餘名を動員して市街化作業を實施したが當日女子青年團、國民學校兒童、竹槍、かま等を持參、男女として參加團體の指揮者を先頭に立てつゝ隊伍を組み、國旗を掲げ、軍樂隊の吹奏、樂に美の手入を

王の花壇をはじめとしてかゝしく市内の要所を清掃したのである清潔とうるつかり面目を一新した

授産講習會入所式

彰化市授産分場主催の第一回出張講習會入所式は七日午前八時から市公會堂で擧行された

【臺南電話】臺南州隊參加團體は七日午前八時より市役所前廣場に集合、市役所前廣場に於て出發式を擧行、午前十時より國民學校兒童の參加を得て市内一齊清掃を實施した

彰化市時局講演會

彰化市國防分會では左記要領にて十月中旬市内各所に於て時局講演會を開催する豫定にて講師の選定を急ぎ居るが決定次第發表する

【臺南電話】臺南州隊參加團體は七日午前八時より市役所前廣場に集合、市役所前廣場に於て出發式を擧行、午前十時より國民學校兒童の參加を得て市内一齊清掃を實施した

鍬の戰士高雄州隊
赭顏を輝かせ歸還
隊旗を返納嚴肅に解隊

【高雄電話】大阪市郊外住吉の部隊に在營中の高雄州隊二〇〇名は八日午前九時二十五分高雄驛に歸着した、同隊は午前八時半頃より高雄驛前廣場に整列、市民多數の歡呼の下に歸還の擧を行ひ、隊長の答禮あつて後に、高雄市役所に到着、それより隊旗を返納して愈々解隊した

嘉義鄉軍總會

【嘉義電話】嘉義市鄉軍人分會の本年度總會は七日午後四時より公會堂に於て内田分會長以下在

【竹南電話】竹南郡下各街庄の部隊長、分隊長、會計係、書記等は七日午前八時竹南郡役所に參集、中松郡守、竹内警察課長より訓辭あつて後各自動車に分乘、苗栗に向ひ、引續き苗栗驛前廣場に於て擧行された歸還部隊の解隊式に參列した

竹南郡水防演習

【竹南電話】竹南郡のシーズン洪水期を控へ、來る十月中旬竹南郡下各地に於て水防演習を擧行すべく着々準備中であるが、今回は特に實際的演習を行ひ、本年度の水防演習に於ける缺點を是正し、以て實際の水防に萬全を期する豫定である

農耕界の寵兒
陸軍病院の內外を清掃
女子挺身隊

【高雄電話】高雄陸軍病院では、今回同院の内外を清掃するため、高雄州下各地より女子挺身隊を動員することゝなり、七日午前八時半より高雄驛前廣場に集合、同院に向ひ出發した

白衣の勇士慰安
高雄愛國子女團が演藝で

【高雄電話】高雄愛國子女團では八月七日より三日間連續して高雄陸軍病院に入院中の傷病兵慰安の爲、同院慰問部の下に慰問演藝會を開催したが、同慰問團は第一回は七日午後一時半より、第二回は八日午後一時半より、第三回は九日午後一時半より、何れも同院慰問部の下に入院中の傷病兵慰安の爲、同院慰問部の下に入院中の傷病兵慰安の爲、同院慰問部の下に入院中の傷病兵慰安の爲、